

世界最高水準と 評価された 国民皆保険制度が、 いま揺れている。

国民皆保険

40兆円

1年間にかかった
医療費 ※1

23兆円

1年間にかかった
高齢者医療費 ※1

7.9兆円

サラリーマンが
1年間に負担する
高齢者医療への
拠出金 ※2

46%

健康保険料から
高齢者医療に
拠出している割合 ※2

3,300
万人

高齢者人口 ※3

7,800
万人

制度に苦しむ
現役世代人口 ※3

健康保険料の4割強を高齢者医療に拠出する。
現役世代への負担はもはや限界を超えています。

国民医療費は毎年1兆円規模で増え続け、いまや年間40兆円※1。
とりわけ、高齢者医療費の増加は歯止めがきかず、現役世代の拠出金は増すばかり。
現役世代への過度の依存はもう限界です。

WHO(世界保健機関)から「世界最高水準」と評価された国民皆保険制度が、
いま崩壊の危機に瀕しています。国民は、黙って見ているしかないのでしょうか。
健保組合・健保連は求めます。消費税率10%への引き上げによって生まれる税財源を、
高齢者医療制度に投入するなど、より踏み込んだ「負担構造改革の実現」を、

健康づくりの推進、適切な医療提供体制の見直しなどによる「医療費適正化の推進」を。
本年には「日本健康会議」が発足。健康寿命の延伸のため、
経済界・医療界・自治体・学会・健保組合等の保険者が一丸となった取り組みが始まりました。
世界に誇れる国民皆保険制度を、未来の日本に残していくために、
健保組合・健保連は、強く訴え、活動してまいります。

< 高齢者は65歳以上、現代世代は15~64歳 >
※1: 厚生労働省「平成25年度 国民医療費の概況」より、平成25年度国民医療費40兆610億円
※2: 厚生労働省資料をもとに、健保連で試算。健康保険料には事業主負担分を含む
※3: 内閣府「平成27年版 高齢社会白書」より

健保組合・健保連は訴えます。高齢者医療費の負担構造改革と、医療費適正化の推進を。

健康保険。みらいのために、今、変えよう。

あしたの健保プロジェクト